

こどもまんなか応援サポーター就任宣言・キックオフ座談会 議事概要

- 1 日時：令和6年6月12日（水）13：15～14：15
- 2 会場：基町クレド・パセーラ6F 翼の広場
- 3 登壇者：湯崎広島県知事・安部友裕さん・犬山紙子さん・久保田夏菜さん・柘田絵理奈さん
- 4 概要

(1) こどもまんなか応援サポーター就任宣言

【知事挨拶】

湯崎 本日、広島県は、「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、「こどもまんなか応援サポーター」就任を宣言する。

本県では、妊娠・出産や子育て中の家庭の不安や悩みに寄り添い、見守り、支援する「ひろしまネウボラ」の構築をはじめ、子育て応援イクちゃんサービスや子育てスマイルマンション認定制度などの「こどもまんなか」なアクションを実施しているが、今回の就任を機に、より一層、こどもたちのために何が良いか考え、子育てしやすい、暮らしやすい広島県を目指してまいりたい。

また、今日は広島県だけではなく、このあと登場いただく4名の方々をはじめ、県内全23市町、企業や団体など37者の方々とも一緒に応援サポーター就任を共同で宣言する。こういった方々とも一緒になって、広島県の明日を担う子供たちの健やかな育ちと子育てを、社会全体で支えていけるよう気運を盛り上げてまいりたい。

一方で、全国的に少子化が進んでおり、広島県でも、明日を担う子供の数が大きく減っている。

結婚、妊娠・出産、子育ては、個人の自由な意思に基づくものであるが、子供の数がこのまま減少し続けると、地域・社会・経済の担い手が不足し、社会保障制度の維持も困難になってくる。

そういった中で、「子供を持ちたい」といった希望を叶える後押しをすることが重要だと考えており、そのためにどのような支援が必要であるか、今後、県民の皆様から幅広い御意見をいただきながら、考えていきたい。

本日は、そのキックオフということで、まずはこれから登場いただく4名の方々と少子化の現状・課題等について意見交換を行う。

また、7月以降には、県民の皆様と少子化について話し合う車座会議を計5回開催し、さらに直接意見をうかがうための特設サイトの開設も予定しており、その際は是非、皆様の意見を聴かせていただきたい。

【応援サポーターあいさつ】

安部 私自身2児の父親。引退後はスポーツマネジメント会社を立ち上げ独立。勉強する気持ちで臨みたい。

犬山 10年前から広島にゆかりがある。ピタニューの番組で子育て座談会や子育てしている県民の声を聞く機会が多い、子育てしやすい社会になるように伝えていきたい。

久保田 6年前に広島市から安芸高田市在住。2人の子供を育てている。病院に連れていくのが大変。そういった問題が日々ありながら、子育てしている方がいると思うので子育て

中の方々にとって優しい環境づくりについて、みんなで考えるきっかけづくりをサポートとしてやっていきたい。

柘田 神奈川県出身。10年前に堂林選手との結婚を機に広島に移住。3人の子供がおり、広島県の暖かい方々の支えがあった分、これから子供を持ちたいかたや子育て中の県民の方をサポートしていきたい。

(2) キックオフ座談会

【子供を持ちたいという希望を実現するには】

久保田 子供ができた喜び、子育ての楽しさがある中、経済的な問題は内容が明確なため、その問題を見える形で取り除くことが大事。出産後の働ける環境を整えてほしい。子育てできる環境を見える化するということで、例えば、極端ではあるが、「広島県は会議に子供を連れて行ってもいい」のような見える化があれば安心して育児にのぞめるのでは。

柘田 子供を持ちたいと考えたときに情報が入ってこないところもハードルではないかと思っており、リアルな子育てをイメージできるよう、子育て世代、これから世代が交流できるイベントなどがあれば、前向きな想像ができるのではないかと。また、実家が県外のため、両親がいない、頼れるところがない、時間に余裕がないという方々に（行政の）制度を知ってもらえたらいいのではないかと。

安部 現役時代は時間の都合上、育児に参画できた時間が少なかった。（育児を）やった感は男性がよく出す。そうではなく一緒に手伝う事が大切。寄り添いの気持ちと妻への理解をしながらやっていくのが大切。

犬山 夫が家事担当。子供の病気の際など、「仕事に支障が出ることへの不安」はどうしても出てくるが、そういった具体的な不安がある中でも、助けてと言える力をつけることが大切ではないかと。

湯崎 （子育てについて）楽しさがあるなかで、世の中的には大変なところばかりが強調されている。子育ての楽しさを伝えること、制度など頼るところについて周知も含めて充実をさせていく必要がある。ひろしまネウボラは各市町にあるが、まだまだ情報不足な部分もあるので、改善していきたい。

【社会全体で子育てを応援】

安部 会社を経営しているのでそちらの観点になるが、心理的安全性の観点からも定時に帰れるというような企業の努力がありながら、サポートできる環境ができていくのではないかと。公民館のようなところに子供をみてもらえる仕組みがあるとか、スポーツを活用した施策があればいいのではないかと。

犬山 企業からのアプローチが大切。そういうことで社会の中で「孤立」していないと感じることができる。児童虐待に関連して取り組んでいるが、様々な要因がある中で、共通しているのは「孤立」だと感じている。子育てをする中で「孤立」を感じることもあり、企業で働いていて、周りに迷惑をかけるのではないかと感じることもあるが、笑顔で見守る社会だったり、広島が今回のようにやっていきますというのも大切。

柘田 近所の方や一緒に子育てをしているママ友などのつながりに助けられた。

久保田 実家から何キロ圏内かで住む場所を決めた。安芸高田市は明らかに子供が少なく、少子化に対して敏感になっているが、少ない分厚いサポートもある。市の広報誌に生まれた子供が掲載されるなど、地域でも保健師さんも顔見知りで連絡をくれたりすることがある。母親としては県の制度もいろいろあるが、使うことに勇気がいる。それをしていると制度は広まっていかないので、制度を使う側も積極的に関心を持つことが大切。

湯崎 9割ぐらいの人は社会全体で子育てを応援したいと思っているが、当事者は25.8%しか応援してもらえていると感じておらず、ギャップがある。そのため意識を変えていく必要がある。さらに、希望の数が持てない理由として、経済的な理由というのが大きい。それについても社会でどうサポートするかということになる。国の方でも3.8兆円の子供・子育ての議論があるが、負担が増えるのか増えないのかということばかり焦点が当たってしまい、お金はかかるけどいい制度だという議論になかなかない。現実問題としてお金がかかってしまうことなども含めて、これから車座会議も始まるので、みなさんと共有しながら議論していきたい。

(以 上)